



岩手競馬を 再生する!

新聞やニュースでご存知かと思いますが、ここ数年来、岩手競馬の存続が危ぶまれています。競馬を取りまく経済状況の変化や運営コストの増大などにより、基盤が揺らいできたからです。岩手県は、水沢市、盛岡市とともに、構成団体の一員として、岩手競馬の再生を支援することを決定しました。これについて県民のみなさんからもいろいろなご意見をいただいている。「なぜ県は競馬を支援するのか?」その理由についてご説明します。



そもそも、なぜ岩手に競馬が生まれたのでしょうか。古くから岩手は名馬を産出する地域として知られ、また、馬は農業の働き手として、岩手の農家になくてはならない存在でした。チャグチャグ馬コなどの伝統行事や、オシラサマといった民話が今に伝えられているのも、こういった歴史的な背景があったからです。やがて農家の人たちが育てた馬の優秀性を競い合う生産地競馬が盛んになり、次第に現在の競馬へと到るベースが形づくられてきたのです。

馬と深い関わりがあった岩手に、岩手競馬が設立されたのは昭和39年。以来40年にわたり、構成団体である県・水沢市・盛岡市に、約407億円の収益配分金を還元していました。このお金は、畜産の振興、保健医療を始め、社会福祉や教育などの財源として、幅広く活用されました。

このように岩手競馬は、娯楽の提供だけでなく、岩手をより良くする事業のお手伝いをしてきたほか、馬事文化の継承・振興や雇用の場として重要な役割を果たしてきました。

岩手競馬は変わります。 もっと地域に開かれた競馬場へ。

では、岩手競馬はどのように変わっていくのでしょうか。これまで競馬場は、レースを楽しむ人たちの場所でした。しかし、これからは、もっと多くのみなさんが楽しめる場所へと変わります。例えば、歩くスキー大会、大画面を使ってのゲーム大会、馬とふれ合えるポニー乗馬の実施など、家族連れや友達同士で楽しめるさまざまなイベントを予定しています。他にも中古車の展示会やフリーマーケットの開催など、民間のイベント会場としても活用できるように活動範囲を広げていきます。

また競馬場には、憩いのスペースがたくさんあります。子どもたちのための遊び場や緑がきれいな広場が整備されていますから、家族でお弁当を持って遊びに行く場所としても利用できます。限られた人の場所から、もっと地域のみなさんのための場所へ。競馬以外でも気軽に利用できる、岩手競馬に変わっています。

イベント開催予定	
イベント	開催時期
東北ばん馬競技	5月、11月
大型映像利用ゲーム大会	夏
体験馬そり	2月
歩くスキーカーニバル	2月
他に、フリーマーケット、自動車展示販売会等を予定	

3年を目処に黒字化へ。 徹底したコスト削減と営業努力で

岩手競馬を建て直します。

地域に開かれた競馬場へと変わる一方で、根本から経営を改善するために、競馬組合の強化では、JRA(日本中央競馬会)によるインターネット発売や街中の場外発売所を設置するなど、多くのみなさんが参加できるイベントの開催や新しいサービスなどを始めています。さらに、これまで事業運営が「岩手県競馬組合」と施設の環境整備等を担当している「(財)岩手県競馬振興公社」に分かれていたものを一本化し、合理的・効率的に事業を運営していきます。

このような改革を進めながら、平成19年度までに黒字化を目指すのが、岩手県競馬組合改革の実行計画です。岩手の財産として、みんなに応援してもらえるように。県は、競馬事業の再建を支援していく

岩手競馬収益配分金はこれまで約407億円。
保健医療・社会福祉・教育の財源として、みんなの暮らしに活かされました。

これから岩手競馬はどうあるべきか。
「岩手競馬のあり方懇談会」や県議会での意見が交わされました。

「岩手競馬を続けていく意味はあるのか?」「これ以上赤字が増えるのであればやめるべきでは?」これから岩手競馬の方向性を見い出すために、各界から選ばれた委員により、平成15年から16年にかけて、「岩手競馬のあり方懇談会」の場で意見が交わされました。そして、歳入不足組むこととし、昨年11月に「岩手県競馬組合改革／実行計画」を策定しました。この計画について、県議会12月定例会で、売上目標や民間委託の実現性などに多くの意見が出されたことを踏まえ、計画を精査し、今年2月に「改定実行計画」を策定。県議会2月定例会でも厳しい指摘も含めて議論が交わされました。県が27億円、水沢市、盛岡市がそれぞれ5億円ずつ融資するこ

ととしました。これを受け岩手県競馬組合は、歳入不足額(赤字)がこれ以上増加するようであれば期限を定めて廃止を決断すべきとの方針が示されました。